

第22回

# 全国社協職員のつどい 和歌山大会 報告書

いろんな“もちより”ありがとう



WA!

WA! 話して WA!  
和んで 輪になった!



開催日 2025年11月22日・23日

会場 海南nobinos/海南市保健福祉センター

主催 第22回全国社協職員のつどい和歌山大会実行委員会  
関西社協コミュニティーワーカー協会

共催 海南市社会福祉協議会

## はじめに

第22回全国社協職員をつどい和歌山大会にご参加いただいたみなさまありがとうございました。

22回の歴史の中で初の和歌山大会ということもあり、どれだけの参加者が集まるのだろうかと心配していましたが、締め切り時には予想を上回る申し込みをいただき、企画メンバー一同、驚きと共に不安の増幅となりました。

参加してくれる社協仲間に、「楽しんで、学んで、繋がってもらおう」ために企画メンバー、実行委員がオープニングから全体会、各分科会、懇親会、エンディングまで、知恵を出し合い時間を重ねてきました。

また、和歌山メンバーの「受援力」で、関コミ役員が「基本要項分科会」を引き受けて下さり、分科会全体の厚みが増しました。そして、奈良仲間が「広報大志」を、京都仲間が「有田のおばちゃんブース」など手助けを頂き沢山の仲間に支えられながら無事大会を終える事ができました。

2日目の全体会まとめて、隣り合う仲間とリフレクションシートを見せ合いながら話しているみなさんは、全員笑顔で、私自身「本当にやってよかった」と心より思う事ができました。

大会を終え、リフレクションのアンケートでも、多くの皆さんが「和歌山サイコー」と言って下さり、またSNSでも「和、話、輪、和歌山～♪が頭から離れない」といった投稿を目にし、全国各地から集まった社協職員が「和んで話して輪になれた」場を持ち帰れたのではないかなと思います。

この大会で繋がった輪は、みなさんにとって宝物になります。悩んだり行き詰まった時は全国の仲間が必ず寄り添ってくれます。これからも輪を広げていきましょう！

2026年3月  
第22回全国社協職員をつどい和歌山大会  
実行委員長 地本 達行



## 目次

内容	頁
はじめに	
オープニング	2
全体会 1	3
分科会報告 01 新人	7
分科会報告 02 災害支援	11
分科会報告 03 社協人生集大成世代	14
分科会報告 04 IBASHO	15
分科会報告 05 相談支援の対応力	18
分科会報告 06 社協基本要項-関コミ-	22
全体会 2	25
フィナーレ	26
もちより紹介	27
参加者アンケート	31
協賛紹介～深い感謝と共に～	33
実行委員会記録	34
番外編	35
参加者名簿	38



度肝を抜いたオープニング ~メンバー紹介~



Vo.&Gt. たっちゃん / Gt.Cho. りょーやん / Gt.Cho. ななっぺ / Ba. じょー  
Gt. まえじくん / Key.Cho. りょーちゃん / Dr. つっちー



和歌山県 PR キャラクター  
「**きいちゃん**」  
紀州犬がモチーフです



すさみ町商工会所属  
イノブータン王国王子  
「**すさみん**」



海南市 PR キャラクター  
「**かい**海ニヤン」  
お菓子が大好きな女の子の猫

# 社協職員であるあなたは 地域住民と話せていますか？

地域へ出ていますか？あなたの当事者性はどこにありますか？社協職員こそ夢を！

地域を見れば、自由に楽しくスピーディに当事者性をもって地域をフィールドに活動する人達もいます。そんな中で社協職員はどんな立場で共に進んでいくべきなのでしょう。

所属は違えど、暮らしと地域社会、そして自分自身に向き合い、夢をもつ三者が語られました。お互いの思いや活動を尊重しよりよい地域社会をつくるために、社協職員としてこれからどう行動していくか考える時間となりました。

## 登壇者の思い

今回このつどいに参加して思ったことは、社協の職員さん同士の繋がりが非常に強い印象を受けました。いや、その繋がりをずっと育てていらしたのか？こんな熱い思いを持って全国から集まって学ぼうとしている人たちなので、きっと何か、ほんの少しのきっかけがあれば大きなことを成し遂げられる。そんな未来を勝手に想像してしまいました。

さて、今回の発表の裏では次のような目的があり、

- 社協本来の地域福祉のあり方を若手に再確認してもらい夢や希望を持ってもらうこと
- 原動力は何か？
- 困っている人を見過ごせない気持ち
- 持続可能なものにするための工夫

大きく以上の4点になります。

その中でも私自身がミーティングで重要だなと思ったのは、いかに若い職員さんもしくは野望を持ってウズウズとしている人たちを焚き付けられるかが僕の役目なのかなと思っていました。公務員も社協さんも縛りが多い仕事柄かなと思いますが、そんな中でも私はあれこれルールの中で好き勝手に楽しくやらせてもらっています。

勢い任せに走っちゃったのですが、今じゃそれなりの形となって、次のステージを見据えています。私から言える最大限のアドバイスは、固定観念にとらわれない、自由な発想と可能性で、まずはやってみることから始めてみてください！そして何かやりたくなったら、まずは空き家を取得してみてください。始めてみると、自然とそれができるように社協の皆さんみんな面白い人たちが皆さんのことを助けてくれます。どうぞ安心して突き進んでください！

複合施設「辻本」 いいだしっぺ

梅本 修平さん



第22回全国社協職員のつどい和歌山大会に参加し、このような学びと出会いの場を和歌山で開催していただいたことに、心より感謝申し上げます。私自身、日々の業務に追われる中で、全国の社協職員が一堂に会し、それぞれの実践や悩みを共有できる時間は本当に貴重であり、参加して良かったと素直に感じています。特に新人分科会での意見はとても新鮮でした。

和歌山大会では、私自身が居住支援法人として「住まい」をテーマに実践報告を行いました。報告を通じて、改めて地域福祉と居住支援は隣接しているなど実感しました。また、久しぶりに再会した仲間や社協時代にお世話になった先輩方、新たにつながった全国の職員との対話を通して、地域や立場は違っても、同じ思いを持って現場に向き合っていることを感じる事ができ、大きな励みになりました。今回のつどいで得た学びとご縁に感謝しながら、今後の居住支援や地域福祉の実践につなげていきたいと思えます。

**一般社団法人 SocialReform 代表理事**  
**三林 達哉さん**



あっという間に終わってしまった和歌山大会。登壇のお話をいただく前から、実行委員長と広報ぶちよーからのお話は断らないと決めていたので、すぐに「私でよければ」とお返事いたしました。さあ何を話そうか。考え始めると何も出てこず、実践報告でもないし前を向けるような未来において夢をもてるような話もない。今の私が未来においてすすむために、このモヤモヤを共有しようと思ひ、あのような形になりました。

後で写真を見返すと緊張で全然笑えていなくて、確かに最初に思いっきり噛んでしまうまではあまり覚えていません。むしろ噛んだことが面白かったことしか覚えていませんが、あれでふりきれたところもありました。あとは皆さんの反応で助けられました。実はうちわなんてふられたら集中できるかと思っていたのですが、うちわめちゃくちゃ良かったですね。時間の都合もあり、中途半端にモヤモヤへ巻き込んで終わってしまったのですが、それがいい感じに分科会にも引き継がれたのではないのでしょうか。

たくさんの方に声をかけていただき、共感や自社協での取組などお話をさせていただくことができました。遠慮なく思いを話せる場というのはいいものですね。

最後にモヤモヤははれましたか？と聞かれました。まだはれてはいませんが、これからは分かるかは分かりませんが、少し未来においてやってみようという気持ちにはなりました。次のつどいで皆さんにモヤモヤの行方がお話できるよう、できることからやってみようと思ひます。素敵な機会をいただきありがとうございました！

**社会福祉法人 有田川町社会福祉協議会**  
**谷口 友紀さん**



**コーディネーター**  
**佛敎大学 准教授**  
**金田喜弘 さん**



# 参加された皆さんからの感想

中から、外から見た社協。経験を通して見た社協について対比しながら、社協らしさを感じることができました。

オープニングでは和歌山の元気！

登壇者からは、和歌山の地域性を広く発信できたこと嬉しく思います。

ご登壇いただいた3名からそれぞれ違った立場で社協についてお話いただき、どこも共感できるところや同じモヤモヤもあり、自分はこれからどう実践にうつしていくのか改めて考える機会となった。特に社協を知らない修平さんの活動が面白い味を出していて、面白い掛け合いになっていたと感じた。



“唸り”を突っ込まれた時の梅本さんが「結局、“シャキョー”ってようわからんのです。皆さんの中に何か大切に共有されているものがあることは感じるのですが、それが何なのか、社協の方々の話を聴けば聴くほどわからなくなるのです。今がまさにそうです。」という意味の語りが、強烈に印象に残っている。

三林さんの話は、相談からニーズキャッチして開発していく、まさに住民主体の地域福祉・参加支援の開発プロセスだと感じましたが、民間サービスの開発と捉えると、社協や行政は協力・協働していく理由が分からないだろうな。整理が時間が必要だったなー。

谷口さんのモヤモヤを共有することで終わる感じが良かった。分科会での共有につながった。谷口さんが言っていた、、、という言葉をついに聞きました。



# #全国社協職員をつどい #和歌山大会 #社協の輪ひろがれ #全体会1日目 #全体会で学びを深めよう

受付、よってって、ウエルカムなどのコーナーでは、緊張していたり高揚していたりする参加者の皆さんがほっとして笑顔になってくださっていました。こんなにありがたいを大量に交わす機会ってあまりないですね。学びの成果とともに、心強さももちかえられたのならうれしいです。



やりたいと思った時（タイミング）に自分の直感に従おう！やっぱり地域福祉が好きだな、と改めて感じました。社協の方以外の実践も、とても参考になりました。また、自分なりの「社協とは」をしっかりと考える機会になりました。

研修会や研究会などは、いわゆる大学教授や名の知れた？人によるお話が多いのですが、今回のつどいでは社協ワーカーだからこそその視点や観点で、課題提起されており大変深みのある内容でした。社協ワーカーによる、社協ワーカーのための集いだったとおもいます。



「社協っぱい」とは何なのか？改めて、社協職員自身が語り、考え続けなれないといけないと強く感じました。

地域福祉を通してワーカーの働きが対価となりそれが人件費やお給料であることを認識して、安定的に給料をいただける（頑張っても頑張らなくても給料が変わらないから頑張らなくても良いとなった春歌退化）ことに、しっかりと危機感を持つことができました。この危機感をちゃんと感じられたら社協を言語化の一步となるとめっちゃくちゃ考える時間いただきました。

踊りやバンド演奏など、会場全体が一体となる仕掛けが本当に素晴らしく、最高でした。

また、随所に感じる和歌山のおもてなしに心を動かされました。

「とりあえずやってみる」という前向きな姿勢に大きく背中を押され、地域に戻ったときに住民の方々と一緒にまずは動いてみよう、と勇気をいただきました。

社協の仕事は“日々のお宝探し”であり、地域の方々と一緒に耕し育むものだ改めて実感できました。



# 10年後の自分へー今からアクション！

本分科会では、近い将来10年後に焦点を当て、「少し先の自分の姿」を考えることを目的とした。『キャリア10年の先輩ワーカー』をお招きし、これまでの歩みやこれからの展望、業務外の活動等についてお話しいただいた。

先輩ワーカーの実体験を通して、参加者が自身の将来像やキャリア形成について考える機会とするとともに、今後の業務への意欲向上や自己研鑽の促進を目指した。

## ★ゲストスピーカー：東近江市社協 水谷友彦さん



参加対象：入職5年未満の新人ワーカー



## 実行委員

- 林 季和 【日高町社協】(和歌山県)
- 草竹綾香 【和歌山県社協】
- 福田悠人 【和歌山県社協】
- 藤田夏輝 【新宮市社協】(和歌山県)
- 嶋田 茜 【有田市社協】(和歌山県)
- 石谷智也 【大和高田市社協】(奈良県)



## 1.水谷先輩講義：「さあ、10年後の自分に会いに行こう」

### ①ひたすら仕事に追われていた期（1～2年目）

- ・家計改善など個別相談業務を担当し、業務量の多さに追われる。
- ・記録や整理が追い付かず、相談者からの厳しい言葉に悩む。
- ・業務の進め方を見直すことで、自己管理の重要性に気付く。

### ②自分は社協で何がやりたかったんだ期（3～4年目）

- ・市役所常駐業務が増え、社協職員としての役割に疑問を持つ。
- ・県社協会議を通じて、課題解決型の取り組みを経験する
- ・「変えていきたい」という主体的な姿勢の仕事のやりがいにつながる。

### ③化け物たちとの出会い期（5年目）

- ・全国社協職員のつどいで高い志を持つ職員と出会い、価値観が揺さぶられる。
- ・災害派遣での出会いをきっかけに行動を起こす。
- ・自主勉強会「What's 課」を立ち上げ、仲間と学ぶ重要性を実感。

### ④理想と現実にもがくもやもや期（6～8年目）

- ・コロナ禍で地域活動が制限され、理想とのギャップに苦しむ。
- ・活動者支援や学びを通じて、自分自身を見つめ直す。
- ・不満よりも小さな行動を積み重ねる姿勢へ転換。

### ⑤おもしろがってやったらええねん！期（9年目～現在）

- ・地区支援を主体的に担い、正解よりも挑戦を重視。
- ・地域住民や仲間との共創が進む。
- ・「おもしろがる」姿勢が人と地域を動かす原動力となる。

## 〈水谷先輩が伝えてくださったこと・学び〉

### (1)「つなぎ方」の方法の視点

- ・水谷先輩は地域住民一人ひとりの思いや小さな声を丁寧に拾い上げている。
- ・自分自身も楽しみながら、「活動」や「場」といった具体的なカタチにしていくことを大切にしている。

### (2)地域住民の思いをカタチにするための考え方

- ・自分がやりたいことから始めるのではなく、「相手(地域)が何を大切にしているのか」を出発点として考えている。

### (3)自分たちの職場を自分たちでよくしていくという意識

- ・待つ姿勢ではなく、気づいた人が声を上げることが大切である。
- ・小さな事でも積み重ねていくことで、職場の空気や雰囲気少しずつ変わっていく。

### (4)忙しい日々の業務の中で、面白いことをどう生み出すか

- ・週に1回はあえて何も予定を入れない時間をつくり、「考えるための時間」を確保することを意識している。

### (5)一緒にやってくれる仲間の見つけ方

- ・待っているだけではつながりは生まれない
- ・自分から積極的に地域に出て、人と出会い、つながることを大切にしている。

## 2.グループワーク -交流会-

A~Dの4つのグループに分かれ交流・意見交換を行った。

参加者が1~4年目の新人職員であり、日々の業務に追われているなかで、社協職員としての目標や展望を考える機会となった。

グループワーク全体を通して、新人職員としての悩みは共通点が多いことがわかり、互いに共感し合うと同時に、「仲間がいる」という安心感を持てた。意見交換を通して、親近感と一体感が生まれ、特に小規模社協では得がたい横のつながりを築くことができた。

以下、水谷先輩の講義を受けてグループワークで出た意見を要約。

### ◆ ①講義の感想

- ・業務外の活動への関わりなど自己研鑽や業務効率化の取り組みに刺激を受けた。
- ・新しいことを始める一歩を踏み出せないモヤモヤから、やってみようと思えるようになった。
- ・誰もがはじめから特別だったわけではなく、意識が高まるきっかけとなった出来事やキーパーソンとの出会いを、自分自身のモチベーションにつなげることが大切だと学ぶ。

### ◆ ②社協職員としての悩み

- ・職場内での仕事への意識や方向性の共有の難しさを感じている。
  - ・市町村社協との連携や研修企画の難しさを感じている。
  - ・実践経験が少なく、地域づくりや仕事の方向性に迷いがある。
- 判断ができないため、相談者は地域住民への返事を待たせてしまう。

### ◆ ③担当業務での悩み

- ・地域との関係づくりや相談対応での提案に不安がある。
- ・事務作業が多く、書類整理が苦手である。
- ・専門性をさらに高めていく必要がある。



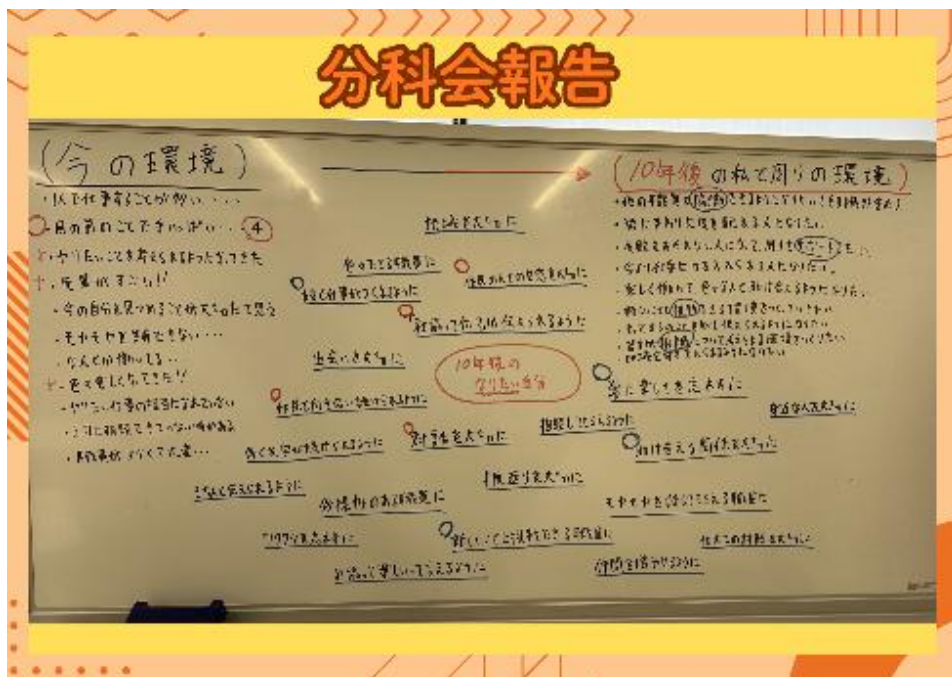
### 3.アクションプラン作成・分科会報告

1日目の講義、グループワークの後、2日目はそれぞれの立場から今後自分がチャレンジしてみたいことなど、アクションプランの作成を行った。

アクションプラン作成では、「今の環境」と「10年後の私と周りの環境」をキーワードに対比しながら個人ワークを行った。

今の環境については、日々の業務に追われ余裕が持てないことや、自身の将来像を考える時間が持てていないことが圧倒的に多く挙げられた。一方で、仕事のやりがいや楽しさを感じている意見も見られた。10年後の姿は、他職種と連携しながら専門性を高める、学び続ける姿勢を持ち、失敗を恐れず挑戦できる職員となること、また、職員同士が助け合い、気軽に相談できる職場環境を築くことといった意見がある。10年後は、他者や環境にまで目を向け、組織全体として社協を捉えるという特徴がみられた。

さらに、「対話を大切にすること」「振り返りと学びを継続すること」「住民一人ひとりに寄り添う姿勢を持ち続けること」が、10年後のなりたい自分と職場像の共通したキーワードとして整理できた。



### 4.Keyword

俯瞰する力 / 頼る力 / つながる力 / 積極性 / 想像力 / 小さな積み重ね / 10年後を描く力 /

### 5.記録者所感

本分科会実行委員が全員新人職員で不安もありましたが、ゲストの水谷さんとも何度も会議を重ね、時には本分科会へのアドバイスもいただき感謝の気持ちでいっぱいです。

企画運営を通して、1年目～4年目の新人に参加いただき、同じ新人でも参加者の立場や置かれている環境、心情は一人ひとり異なっており、その違いを俯瞰的に捉え、もう一步踏み込んで物事を考察することの大切さに気づきました。

本分科会での仲間とのつながりを今後の業務に活かし、少しでも一步新たなチャレンジの後押しにつながれば嬉しく思います。

(記録者:日高町社協 林 季和)

## 02 災害支援

### よっしゃよっしゃ 備えしとけば物も心も憂いなし

～紀伊半島水害から14年 今も昔も大切にしたい気持ちをつないで～

自然災害が頻発するなか、平時から災害に備え、被災者に寄り添い支援をしていくことは社協の普遍的なテーマです。

被災経験を踏まえ防災・減災の取組を進めるための災害法制の整備に併せて、災害ボランティアセンターなどの仕組みも考察を重ねられています。

また、くらしのあらゆる場面で活動のシステム化が図られています。

こうした進化を遂げ続ける中であって、変わらないものは何か、社協が大切にしたい・注力すべきことは何か、今後も支援に携わる者として、大規模災害に備え・鍛える心（マインド）は何だろうかを語り合う分科会となりました。

★コーディネーター 和歌山県社協 南出 考

★パネラー 和歌山県紀南地域の社協職員



#### 実行委員

- 南出 考 【和歌山県社協】
- 漁野 真司 【太地町社協】
- 福島 圭 【新宮市社協】
- 大江 真季 【新宮市社協】
- 川口 詠史 【那智勝浦町社協】
- 寺岡 克視 【古座川町社協】
- 山崎 悟 【北山村社協】
- 竹中 真希 【串本町社協】



## 【1日目】

アイスブレイク:「あっち向いてホイで交流」(勝ったら名刺をもらえる)

ねらい:ハジメマシテの関係を無くし、気に掛け合う関係を切り拓いていこう

### 1.平成23年紀伊半島大水害を振り返る 司会:竹中さん

#### 1)災害と支援の概要について 和歌山県社協 南出さん

- ・2011年9月2日記伊半島大水害(台風12号災害)
- ・東日本大震災の支援が続く最中に起きた災害(全社協の年表には掲載されていない)
- ・災害ボランティアセンター6か所

ボランティア25,000人超 運営スタッフ延べ2,200人

- ・死者行方不明61人

全壊住宅240棟、半壊1,753棟、床上浸水2,706棟、床下3,149棟

(出典:県土整備部「平成23年紀伊半島大水害の被害と復旧の記録」)

#### 【私たちが大切にしたこと、見つめたもの】

「人の心、暮らし、幸せや生きがい、つながりの崩壊が最大の福祉課題」

「泥を見ずに人を見よ」「あなたは独りじゃないよ」という活動を実践

#### 【嬉しかった支援】

多くの『人』が助けてくれた。東日本大震災の被災地等から届けてくれた『資機材』も活動を陰で静かに支えてくれた(その後県内には災害ボランティア活動支援資機材ストックヤードを20か所に設置)。受けて嬉しかった支援・つながりを、次は私たちが差し出せるように。

#### 2)パネルディスカッション

★コーディネーター:南出さん

★パネラー

被災社協:福島さん(新宮市) 川口さん(那智勝浦町) 寺岡さん(古座川町)

支援社協:漁野さん(太地町) 山崎さん(北山村)

##### ① 社協職員(私)の初動・衝動

- ・自宅も被災したが出勤した(使命として)。
- ・局長から電話があり出勤時には注意するように言われた(事務所が20cm浸水)。
- ・透析患者の命を守るため、村の救急車両に乗り込み搬送した。

##### ② 被災者支援活動の実際・災ボラ運営で嬉しかった支援

- ・地元学生がチェーンメールで仲間を集め駆けつけてくれた(若い力に励まされた)。
- ・ボランティアが資機材や支援金も届けてくれた。
- ・近畿ブロックの応援職員のおかげで休みが取れ子供の運動会に参加できた。
- ・ボランティアが残してくれるメッセージが勇気づけられた。
- ・活動終了後、帰路につく際、ボランティアもスタッフも見えなくなるまで手を振って、感謝を伝え合った。
- ・社協同士だから共通言語を持っていて、気心が分かり通じ合えた。  
(知らない者同士でも話が通じ合う)
- ・被災者に寄り添えるのは地元社協だけ。それに注力するために外部支援者が助けてくれる。

- ・局長自ら、近隣社協職員に電話し、資機材の提供をお願いしていた。
- ・朝一の打ち合わせは円陣を組んで行った。笑顔の素敵な職員に和まされた。
- ・日頃の繋がりがあある職員が居ると頼みごとがしやすい。
- ・知っている人が来てくれるとホッとした。

### 3)復興後の活動の紹介 ～チームくまのがわの活動～ 大江さん

- ・災害を体験したからこそその地域づくりを見てほしい。
- ・YouTube [「“復興のひまわり” に託す想い 紀伊半島大水害から10年](#)」をみんなで鑑賞。 ※上記タイトルを押すとリンクに飛びます。
- ・小中学生から高齢者まで年齢関係なく繋がれた地域づくりが出来ている。
- ・住民から「駆けつけてくれたボランティアへのお礼を伝えたい」との想いで企画した。



## 【2日目】

昨日の振り返り：僕らは孤立しなかった。みんながつながってくれた。  
寄り添い、つながることの大切さを経験した。

### 1.グループワーク「明日からの支援者像・支援拠点像」

#### 1) (社協)支援者として「ありがたい姿」や「持ちたい力・心」を可視化する

- ・こんな支援者、ボラセンっていいよね
  - ・こんな気持ちや行動を大切にしなきゃね
- 個人ワーク → グループ内で分かち合う

#### 2)「ありがたい姿」や「持ちたい力・心」を「誓い・宣言・覚悟」として整理する

ベストワン、ベスト3を選出

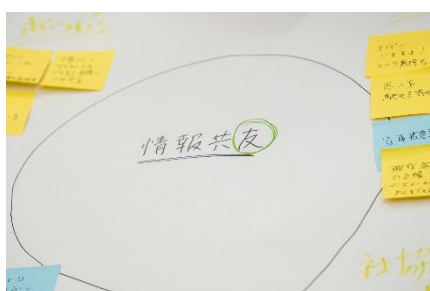
+ 何をどうすればその姿や力に近づくのか・届くのだろうか？

身につけることができるだろうか？を考え話し合う

→共有・みんなの愛の確認をする。

### ★災害時にも心がけている事

「情報共友」 私たちにできる大切なこと



### 記録者所感

「つながり」を大事にし続けてきた社協だからこそ最も被災者に寄り添うことができ、地元社協へ応援に駆け付けることができるのだと改めて感じた。災害支援もICT化が進み、効率化を図る時代になってきたが、今も昔も変わらず大切なのは人の思いに寄り添いつながり続けること。過去の経験を風化させずこれからも継承し、今回の分科会でできた「つながり」も次の世代につないでいきたいと思う。 (記録者：太地町社協 漁野真司)

## 50代の私たちが伝え残すべきことは？

北は北海道から、南は九州の熊本県まで50代28名、60代1名が集い、これまでの人生、そして、これからの生き方について語り合いました。

- ☑社協活動を楽しもう！
- ☑失敗しても良い。チャレンジしよう！
- ☑自ら考えて行動しよう！



### 和歌山からの発信

和歌山には、山があり川があり海もあって、自然がいっぱい。  
みかんや柿、梅や桃、白菜・大根・トマトなど、おいしい果物や野菜がいっぱい。

### ＼「人を育てる」ことは、「野菜や果物を育てる」ことと同じ!!／

- ◆手を掛けすぎても、放置しすぎてもダメ。
- ◆木は土に根を張り、光や水分・栄養を吸収し、やがて実をつける。
- ◆暖かさだけではダメ。寒暖差も大切。
- ◆肥料により栄養を補給することも。消毒により害虫から守ることも。
- ◆大地や太陽、雨や風、山間を流れる清らかな水、それぞれに役割があり、多くの支えによって実は育つ。

和歌山の“みかん” 濃厚な甘みと適度な酸味の絶妙なバランスがおいしさの秘訣。  
このみかん「すっぱい!!」 失敗？  
どうすれば良いだろう？甘みを引き出すためには…。繰り返しチャレンジする。  
改良を重ねておいしいみかんが育つ。1人ではない。自然の恵みや仲間と共に…。



### “すっぱい” は 成功のもと!!

#### 実行委員

山本 幸則【かつらぎ町社協】  
辻 佳秀【紀の川市社協】

#### [当日スタッフ]

土井 郁夫【みなべ町社協】  
榎本 幸治【和歌山県社協】  
谷 共洋【和歌山県社協】

#### Keyword

「仕事は背中では語る」から「仕事を映える魅せ方」へ／いきいきとした上司を魅せる／好きでブラックで働く／専門職の前に笑顔であいさつ／人によって楽しさが違う／出会いが楽しい人／広報が楽しい人／計算が楽しい人／誰でも得手不得手がある／互いに補い合いともに創り上げていく／チャレンジしての失敗はイイじゃないか！次に活かそう／不測の事態による失敗は仕方がない／確認不足による失敗はしっかり反省を／人は自分で変わろうと思わないと変わらない／まず考えよう／自己啓発を後押しする補助制度や仕組みが重要／リスクばかり考えずに楽しんだらええんちゃう？／社協ワーカーの熱い想いを相談支援や地域づくりに／福祉は感情労働／熱を伝える／友達をつくれ！連携のために

## ええ塩梅の居場所づくり



「ここにいていいんだ」と思える心地のよい居場所、あなたにもありますか。社協職員が描く「居場所とは」人によって逃げ場でもあり、前を向くきっかけにもなる居場所。多様な世代、さまざまな背景をもつ人たちが協働しながら創っていく過程そのものが居場所にもなります。

社協職員として地域資源をつかみ、課題解決方法を考えられていますか。地域の方に真摯に向き合い、その力を信じ切れているでしょうか。振り返りは一緒にできていますか。

「地域にとってええ塩梅の居場所はどうすれば創っていけるのか」居場所づくりについて上野山先生と座談会形式でとことん本気で語り合います。共に成長できる分科会です。

**講師 摂南大学 講師 上野山裕士さん**

対象 居場所づくりに取り組んでいる人&居場所について真剣に考えたい人

### 実行委員

高島麻衣子【奈良市社協】(奈良県) 事例発表  
 左巴誠人【和歌山市社協】(和歌山県) 事例発表  
 坂口岳寛【上富田町社協】(和歌山県)  
 関口玲子【上富田町社協】(和歌山県) リーダー・事例発表  
 松下純子【和歌山県社協】(和歌山県)  
 栗山 史【和歌山県社協】(和歌山県)  
 峪 仁美【和歌山県社協】(和歌山県)



## ◆ 1 日目

### 話題提供（上野山先生）

#### 「ええ塩梅の居場所づくり」についてみんなで語りあおう！

##### □居場所づくりの8つのポイント

1. テーマを明確にする 居場所づくりと地域づくりをつなげる「テーマ」について考えてみる
2. こだわりをもつ こだわりは「訪れたい場」づくりの基本
3. 運営者、参加者の垣根をこえる 居場所に「運営者」「参加者」の区別なく、みんなの力でつくりあげるもの
4. 地域のなかの「得意」を活用する 地域のなかにある「得意」をさがす
5. 適切な情報発信により選択肢を提示する 居場所の魅力を発信する方法とは？  
その人にとって一番よい居場所とは？
6. 地域内外につながりをつくる 居場所づくりも地域づくりも自分たちだけで取り組むものではない
7. こどもを大切にする 多世代交流の地域づくりはこどもを主役にすることから
8. 真剣に楽しく取り組み「満足度」を高める 「満足度」は心地よい居場所をつくる



#### 「ええ塩梅の居場所づくり」について考えてみよら！の時間（個人ワーク）

#### 「ええ塩梅の居場所づくり」について語りあおう！の時間（グループワーク）

##### 【個人ワークで出されたワード】

- ① 居場所づくりを通じてどんな地域にしたいですか？  
→色彩豊か 課題が早期発見出来る
  - ② 居場所づくりにあたってどんなことにこだわりたいですか？  
→皆が役割を持つ
  - ③ 多様な価値観、境遇の人びとと居場所をつくるためにできることはなんですか？  
→何のために話し合える
  - ④ さまざまな「得意」を把握し、活躍してもらうためにできることはなんですか？  
→教えてもらうだけではない 認め合う 「あっそっかあ」の感動を増やしたい
  - ⑤ 居場所について、どんな方法で情報発信を行いますか？  
→アナログで 民生委員 口コミ
  - ⑥ 居場所づくりに取り組むうえでどのような「必要性に基づく協働」をデザインしますか？  
→孤独・孤立対策
  - ⑦ こどもや若者と一緒にどんなことができますか？  
→なんだってできるよ 一度やってみよう 未来を語る
  - ⑧ 真剣に楽しく取り組むために必要なことはなんですか？  
→自分の弱さを開示 当事者性
- その他、「居場所」に対するアツイ想いを書き出してみましよう！！  
→地域から世界平和を

ちょっと休憩しよら！の時間（休憩）  
みかんを食べながら お茶を飲みながら語らいのひととき



**「ええ塩梅の居場所づくり」の実践事例について聞いてみよら！の時間（事例報告）**

**和歌山市社協（左巴誠人さん）**

**「多様性を活かす居場所づくり」～まちの保健室の実践から学ぶ～**

地区社会福祉協議会が中心となることで、地域活動が機能し成果につながる

**上富田町社協（関口玲子さん）**

**「地域の居場所づくり」（孤立を防ぎ、世代を超えて支え合う地域づくり）**

居場所づくりは地域の力を引き出す取組

カフェや食堂など様々あ居場所が、つながりの循環を生み出す

**奈良市社協（高島麻衣子さん）**

**「奈良市社会福祉協議会の拠点実践」-多様な主体と協働による居場所づくり-**

「居場所」とは物理的な＜場所＞を指すのではなく「理解し合うプロセス」を支える  
＜機能＞だと考える

=====

**◆ 2 日目**

**1 日目の振り返り**

**「明日からわたしは・・・自分の生活、暮らしの中でできることから」**

（個人ワーク）（グループワーク）/共有

- ・研修の成果を持ち帰り、地元社協で研修を行う
- ・本日の学びをかたちに（実行）する
- ・滋賀で会う時には「居場所」について語れる自分になる

**まとめ 分科会を通じて得られたのは、「協働力」「創造力」**

- ・立場や役割を越えて本音で語り合い、地域の「得意」や思いを持ち寄りながら、共に形にしていくなかで居場所が生まれる
- ・居場所は誰かが与えるものではなく、関わる人同士の対話と挑戦の積み重ねによって育まれる
- ・そのプロセスを楽しみながら創り続ける

**記録者所感**

居場所は単なる“場”ではなく、人が人に寄り添い、弱さも開示できる関係性の積み重ねによって育まれるものだと、分科会の皆さんから改めて教えていただきました。準備から運営まで「どうしよう、こうかな」と試行錯誤する時間そのものが幸せであり、私自身が前を向く力をいただきました。これからも仲間と共に、その人にとってのよい居場所を創り続けていきたいです。  
（記録者：和歌山県社協 峪仁美）

## 相談支援における対応力

### 「社協ワーカーの餅ベーションを高める??」

全国の社協ワーカーの皆さん！日々、相談や課題に向き合いながら、地域の声を大切にできていますか？社協にとって住民からの声は地域福祉の重要な資源です。自分たちにとって心地よく聞こえる話だけを聞くのではなく、苦情・クレームも適切な対応と解決によって地域の協力者へと変わる可能性があります！またその厳しい声の奥底に、言葉にできない生活課題や生きづらさが隠れているかもしれません。

この分科会では、不満を持った相手の心理の理解、効果的な傾聴と共感、冷静な対応の話し方と姿勢を学びます。さらに、具体的な事例検討やロールプレイを通して、問題解決と関係修復のアプローチを実践的に習得し、対応力（テクニック・スキル）を磨くことを目指しています。

住民から頼りにされるワーカーを目指し、互いに励まし合い、モチベーションを高め、明日からの活力につなげましょう！



▲1日目、橋本先生と共に

2日目、明日からの決意と共に▶

#### 【コーディネーター】

株式会社ユメコム 代表取締役 橋本 珠美 氏

#### 【対象】

傷つき疲れきった社協ワーカー  
& 元気を分け与えられる社協ワーカー



Boost your 餅? Mochi? motivation!



Your fellow 50-year-old men are ready to welcome you.

#### 実行委員

中谷 宏【海南市社協】(和歌山県)  
古久保和樹【田辺市社協】(和歌山県)  
井上 真典【和歌山県社協】(和歌山県)

#### [当日スタッフ]

村木 理恵 【海南市社協】(和歌山県)

#### [参加者]

20名(実行委員、当日スタッフ含む)

## 1. 講義・演習 【1日目】

### 「相談支援における対応力を高める ～苦情対応の場면을想定した事例より～」

コーディネーター：株式会社ユメコム 橋本 珠美 氏

#### 講義

橋本講師から苦情の実際や定義づけ、対応の基本姿勢などについて教えていただきました。

- ・苦情にかかる相談対応は「技術」である。
- ・福祉介護分野における 2023 年度の苦情受付件数は 5,171 件であり年々増加傾向にある。
- ・苦情の種類としては、物の言い方や態度、回答の仕方、スピードといった「職員の接遇」が 44%と最も多く、次いで「サービスの質や量」が 20%である。
- ・苦情・クレームは、実際に得たもの・ことが求める期待水準に満たない場合に表出する。
- ・苦情対応の心構え・基本姿勢は、①その苦情をスピーディーに誠意をもって処理する、②その苦情に対して的確な回答をする（できないことははっきりと「できかねる」と伝える）、③二次クレームを引き起こさない、④その苦情処理で好感度を上げる。

#### 演習

苦情対応の場면을想定した事例検討を 3 グループに分かれて行いました。

[苦情①] 担当者から連絡がない…社協窓口に来られた住民がいきなり「2 週間前の電話の問合せの回答がない」と怒ってきた。この人が誰なのか、何のことも分からない。

[苦情②] 請求書についての苦情…電話で「突然請求書のような書類が送られてきたが説明もなく、何の書類かも分からない。失礼だ」とすごい剣幕でまくし立てられている。

いずれの事例も、自身が一方的に苦情を言われ、何が事実で誰に非があるのかも分からない状況でしたが、対応のポイントとして…

- ・本当か勘違いかは関係なく話を聴く
- ・あいづちやうなずきを使って聴く
- ・相手の話は否定しない
- ・苦情により不快な思いをされたことを謝罪する
- ・苦情の申し出へのお礼を伝える
- ・メモを取る、録音する
- ・確認すべきことを復唱する
- ・回答への時間をいただく、回答の期限を決める

…など、それぞれの事例を通して、すぐにでも活かせる具体的な話し方、姿勢やスキル



を学び、多くの気づきを得られる時間となりました。また、裏テーマである「互いに励まし合い、同じ志を持つ仲間の存在に気づくこと」を意識し、あえて何度も席替えを行い、参加者全員と意見交換できるようにすることで会場全体に仲間意識が生まれるよう工夫しました。



多くの学び、気づきをいただいた  
橋本先生の講義

## 2. 演習 【2日目】

「励まし合い、餅ペーションを高め、明日からの活力につなげよう！」

2日目は実行委員3人の進行により演習を行いました。

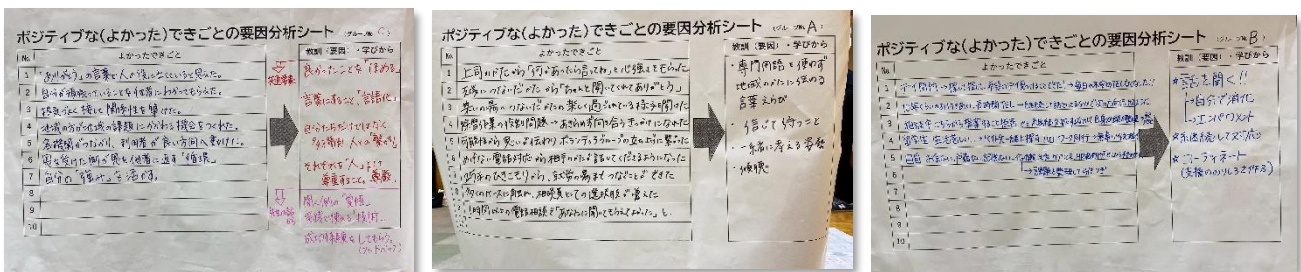
### グループワーク その1 「ポジティブな（よかった）できごとの共有」

これまでの社協活動において、自身の経験上うまくいったこと、ファインプレイ、心が温まったこと、前向きなできごと、職場で、地域で、相談者から言われてうれしかった言葉などの「ポジティブなできごと」をグループで出し合い、シートにまとめました。



### グループワーク その2 「教訓（要因）を導き出す」→全体発表

まとめられた「ポジティブなできごと」の共通点は何なのか、グループで協議し、そこから得られる「教訓（要因）」を導き出し、シートに可視化して全体共有を行いました。



### 「ポジティブなできごと」の共通点から得られた教訓

とにかく「話を聴く」 / 専門用語を使わず伝わる言葉を選ぶ / 信じて待つ / 相手のペースに合わせる / 一緒に考える姿勢 / 継続して対応 / ほめる / 支援ののりしろを作る / 言語化する / 多機関・人との「繋がり」 / 人の尊厳を大切にす / 聴く側の覚悟 / 成功体験の共有

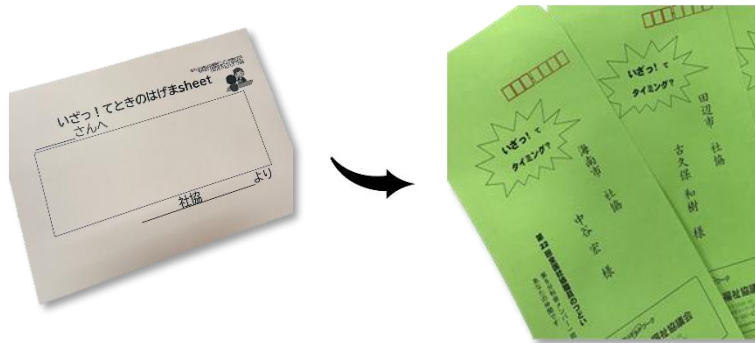
### 個人ワーク 「明日から私は！」→全体発表

1日目の学びやこれまでのグループワークでの気づきを受けて、明日からの「決意」や「覚悟」を一人ひとりシートに書いて全参加者で共有することで、今後の仕事に向けて大きな活力につなげました。



## 個人ワーク 「いざってときのはげま sheet」作成&プレゼント

明日から地元の社協に戻って相談支援業務にあたる皆さんが、この先のいつかに「もう無理、ダメだ」とネガティブな気持ちになり、モチベーションが下がった時に自分を励まし、応援し、鼓舞してくれる「いざってときのはげま sheet」をグループのメンバーに向けて作成。グループ内でお互いにプレゼントし、用意した個別の封筒に入れて糊付けしました。



グループメンバーからプレゼントされた「いざってときのはげま sheet」を封入！

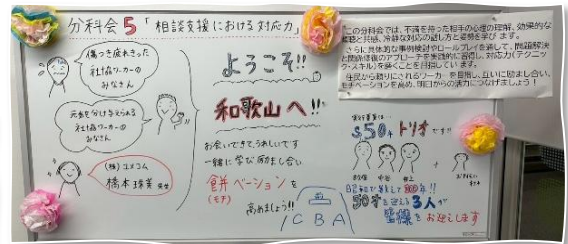
## ★ウェルカムドリンクでおもてなし★

本分科会への参加対象を「傷つき疲れきった社協ワーカー & 元気を分け与えられる社協ワーカー」としていたため、少しでも元気になってもらえるよう、ウェルカムドリンクとして、JOIN ジュース (和歌山のみかんジュース) と栄養ドリンクでおもてなしさせていただきました！



当日スタッフの村木▶

◀昭和50年生まれの共通項で  
結成された実行委員メンバー  
左から井上、古久保、中谷



## 記録者所感

改めて参加者の皆さん、この分科会を選んでいただきありがとうございました。

皆さんそれぞれに相談支援業務の実践に活かせる学び、気づきがあったことと信じています。…とは言え今後もしんどい時、つらい時、凹む時はあると思います。そんな時はこの分科会で共に話し合い、励まし合った同じ志を持つ仲間がいることを思い返していただくと幸いです。

私たち実行委員も2日間を通して皆さんからたくさんの元気エナジーをいただくことができました。

…ところで、「いざってときのはげま sheet」の出番はありましたか？私は、はやく見たいけど、まだその時ではないような気がして開封できていません。(^^;

最後に、リーダーを務めてくれた中谷君、ありがとう！お疲れさまでした！

(記録者：和歌山県社協 井上真典)

## 住民主体を語り合い、未来につなぐために

社協基本要項 2025 改定のプロセスのなか、関コミは〈住民主体の組織〉としての“社協のあり方”を見つめ直してきました。

その中で、私たちがこだわってきた「組織化」や「運動体・協議体」について、日々の実践に照らし合わせて考える大切さを確認しました。

この分科会では、日々の実践や思いから生まれる社協ワーカーの〈実感〉をもちよることによって、“住民主体”をとことん語り、その醍醐味を深く学び合います。

困難な時代だからこそ、自分たちで考え合い、語り合い、決定し、行動する大切さを再確認し、住民の主体形成や自治に携わるワクワクを分かち合いませんか？



### 実行委員

中西知史(東近江市社協)【滋賀県】  
 後藤文造(奈良市社協)【奈良県】  
 杓谷顕彰(高槻市社協)【大阪府】  
 福富儀夫(八幡市社協)【京都府】  
 竹本悠二(福知山市社協)【京都府】  
 大関可奈子(宝塚市社協)【兵庫県】

岡本晴子(奈良県社協)【奈良県】  
 重野弘樹(近江八幡市社協)【滋賀県】  
 難波志保(大阪府社協)【大阪府】  
 小山恵太郎(西京区社協)【京都市】  
 高橋俊行(兵庫県社協)【兵庫県】

## 【1日目】

### 1. 「私の社協実践」

「住民主体」について意識した「私の社協実践」のエピソードを二人の社協ワーカーからの実践のエピソードの発表を受けインタビュー方式でワーカーの想いを深掘り

【発表者】（インタビューイー）

宮本 朋子 さん（和歌山県 有田市社会福祉協議会）

後藤 文造 さん（奈良県 奈良市社会福祉協議会）

【インビュアー】

中西 知史 さん（滋賀県 東近江市社会福祉協議会）

大関 可奈子 さん（兵庫県 宝塚市社会福祉協議会）

小山 恵太郎 さん（京都市 西京区社会福祉協議会）



### 2. グループワーク A 「私の社協実践」

事前に「社協ワーカーとして、私が大切にしていること」「私が考える『住民とは』」「『住民主体』や『組織化』『住民自治』について、思うことや実践を通じたエピソード」を記載した「もちよりシート」を参加者全員が作成。自己紹介を兼ねて社協実践のエピソードを語り、気になるエピソードについて質問し合い、互いの社協ワーカー像を深掘りができました。

## 【2日目】

### 3. グループワーク B 「私達の社協実践」

グループごとで、「私の実践」から「私達の社協実践」へ、私達、社協職員が大事にしていること、「住民主体」について、語り合いあいながら、模造紙に書き込みました。

### 4. わかちあい 「グループ発表」

模造紙に書き込んだ内容をグループごとに発表、それに併せて企画委員がPCでアプリを使って、ポイントとなる言葉を書き込み、リアルタイムに会場に投影しわかちあいました。

#### 【わかちあい「グループ発表」の要約】

##### 住民と地域活動

住民自治は、感動を語り合い、気づきや学びを共有する対話の積み重ねの中で育まれる。「やってみたい」という声を尊重し、雑談も含めた協議が見える化することが地域活動の土台となる。

##### 地域と住民のつながり

便利さの中で失われがちなつながりを取り戻すために、声を拾い形にし、「住民の思い」が意思決定に繁栄されているかを問い続ける姿勢が重要である。

##### 社協ワーカーの役割

社協は、あたたかい協議の場をつくり、対話を通じて見えない思いを引き出しながら、状況に応じた柔軟なかかわりで住民主体を支えていく存在である。

私たち社協職員が大事にしている「住民主体」ってなんだろう



い?!

住民から「こういうこと  
やってみよう」という瞬間が、主体性を感じる

暮らし・生活の主体として  
本音で決めていくことが大事

あーでもないこーでもないと喋ること

「誰が」から始まる、問い続ける。住民? 当事者?

夢、おもろいを形に

住民同士が科学反応、思いがけない副産物も起こる

協議の場を作る  
雑談力大事

気づく、共有、学び合う、話し合うは住民自治の姿

「住民の思い」が協議や決定の場に反映されているか

感動を語り合う

主体ってどれだけ社協職員が感じている?

話し合いを見える化するスキルも必要

地域がもともと持っている力、興味関心が大事

声に気づく、聞く、拾い上げていく、形にする、行動

わかりやすさを追求

便利さから住民のつながりを失うこともある

理想はあったかい協議の場（時に冷たい風がふいたときにどう関わるか）

白いご飯（住民自治）に福祉のふりかけをかける

住民とともに振り返り、問い続けることが大切

当事者性も大切に

当事者と地域住民の違いって何か?

組織内でマインドを継承していくことも大事

表にでてきていない思い、思考、願い、価値を対話の中で発見していく

ワーカーも地域もつどつたら、なんでもできる

主に乗る、巻き込む力  
理屈ではない

問題をどうとらえる? 語り、居場所、考える

主体を大事にする

社協の着ていく姿（相手によって、主体の捉え方）

語り合う場が社協



### 5.分科会で浮かび上がった…話し合いから生まれる“ほんまもん”の想いの組織化

話題提供やワークを通して出来上がった模造紙に散りばめられた言葉には、住民と語り合う楽しさ、仲間と汗を流す喜び、思いが動いたときに活動が生まれるリアリティが力強くにじんでいました。語り合う場が、そのまま“熱源”となり、その熱が社協の仲間へ、そして地域へと伝播していく可能性を強く感じられました。

特に印象的だったのは、「話し合いから生まれる、ほんまもんの想いの組織化」という視点でした。委員会や会議が形骸化し、“てい”としての協議に陥りがちな現場において、私たちが最も大事にしたいのは、住民や本人の声が真ん中にある“ほんまもん”の対話であり、想いを重ねていくことが組織化であり、そして広げていく。その原点を見つめ直す機会となりました。

#### 記録者所感

これまで社協基本要項が語り継いできた「住民主体の社協」。社会情勢や制度・施策が変わっても、社協ワーカーとして変えてはいけない原則であることを確認し直すことができました。未来にむけて、社協のミッションを言語化し、日々の実践に染み込ませて語り続けていくことを大切に、そのマインド（志）をもつ社協ワーカーがつながり（縁）、「私たち」と言い合える“志縁”をこれからも紡いでいきましょう！

(記録者：東近江市社協 中西知史)

## #全体会総括

# すべてを理解できなくても

# 自分の中で『染み込ませ、くぐらせる』

明日からの実践に活かすための3つのキーメッセージ

---

## 1. 「正解」を求めるより「納得」を紡ぐ

社協の仕事にはマニュアルのない問いが多く存在します。「わからないことを認めながら行動する」「答えがなくても語り合う」という姿勢は、住民一人ひとりの複雑な生活に寄り添う上で不可欠です。

**実践のヒント:** 「どうすれば正解か」と悩む前に、仲間や住民と「今、何が起きているか」を語り合い、プロセスを共有すること自体を成果と捉える。

## 2. 「失敗」を組織の「資産」に変える

「酸っぱいは成功のもと」という言葉通り、若手のチャレンジを支えるのは、失敗を許容し、それを意味づけ（リフレクション）できる中堅・ベテランの存在です。

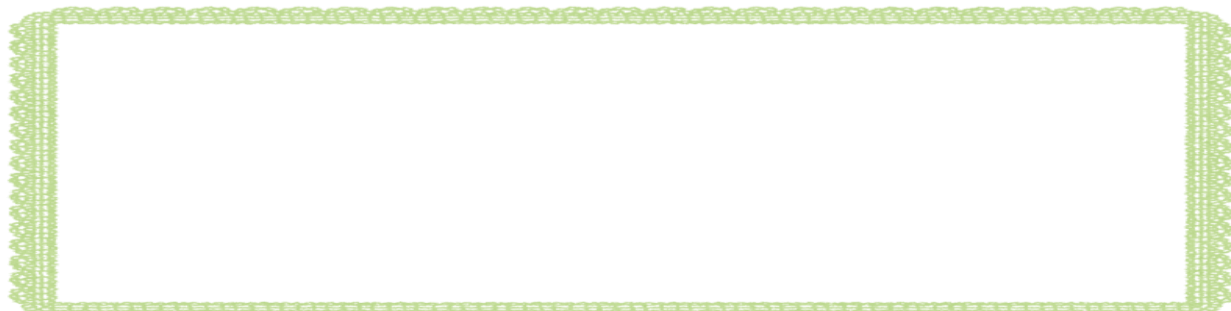
**実践のヒント:** 成功事例だけでなく、ヒヤリとした経験や失敗した試みを「学びの共有」として組織内でオープンに語れる雰囲気を作る。

## 3. 「居場所」としての社協・チームの再確認

相談支援や地域づくりにおいて、職員自身が疲弊しては持続しません。この「つどい」そのものが居場所であったように、職場が「厳しいことも言い合えるが、根底に安心感がある」場所であることが、地域へ飛び出すエネルギーになります。

**実践のヒント:** 業務連絡だけでなく、お互いの「モヤモヤ（悩み）」と「ワクワク（期待）」を分かち合う時間を5分でも意識的に持つ。

## #私たちのネクストアクション



完璧な計画より、一步のチャレンジを。あなたの『やってみたい』を書き留めてください

餅まきの  
聖地  
わかやま♡

# フィナーレ～餅まき～

和歌山では、お祭り事や初午、棟上げの時などに餅をまく風習があります。**作る・集まる一体感や食べ物や物をみんなに配る、支え合いの文化**を全国から集まったみなさんに体験していただきました。

実行委員コアメンバーにおいても、「餅まき」「餅ほり」「餅ひらい」と地域によって呼び名の違いで論争勃発！！！！！！

全体会のテーマより先に「餅まき」の開催が決定したほど楽しみにしていたフィナーレでした。

お餅を作ってくれたのは、普段から自分の家や地元の祭りごとで作りに慣れている

紀の川市ボランティア連絡協議会桃山支部の皆さんです。

朝の7時過ぎから集まって**900個**の餅を作ってくれました。

＼おばちゃんらからの福、受け取ったか～!?／

地域の力



＼厄をはらって福を授かりましょう～!／



＼福や幸せを分かち合う／



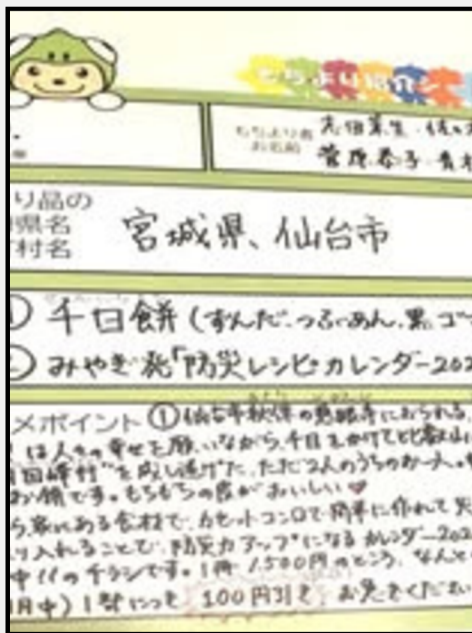
お餅のほか、協賛企業様より、大量のお菓子や地場産業のスポンジなど拾いきれないほどたくさんのお物と、思い出♡を持って帰っていただけました。





大会のテーマである「和歌山へはもちよりで」を物理的にも  
やっつけてしまおうという参加型企画「もちより企画」

つどいN和歌山  
もちより企画



所属社協のイチオシ成果物・冊子等は会場内に展示し、合間に足を止め読みふける人、持ち帰る人の姿が見られました

**つどいIN和歌山**  
**もちより企画**



**地元のイチオシグルメ・地場産品は懇親会で大抽選会により全国各地へ持ち帰られました。私のはどこへ行ったのかなあ**

**つどいIN和歌山  
もちより企画**



餅投げの餅、お菓子、雑貨も、こたつコーナーのおみかんも、文房具まで、ありとあらゆるもちよりでいっぱいのもちよりでした。持ち寄られたたくさんの思いに感謝します。

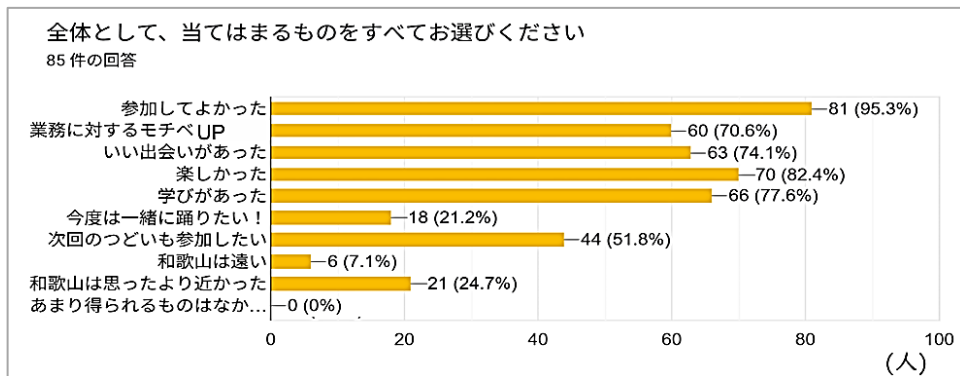
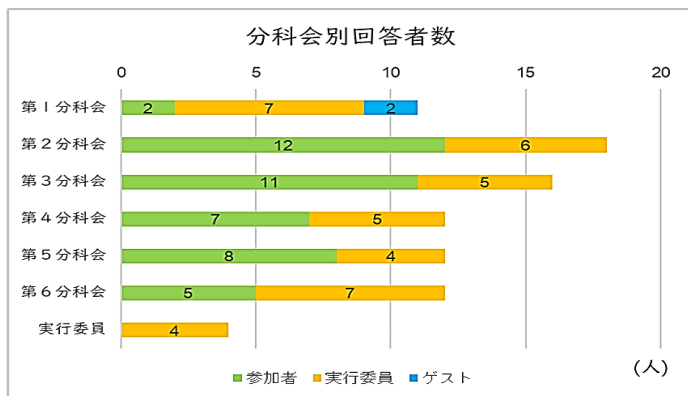
**つどいN和歌山  
もちより企画**

# 第22回全国社協職員のつどい和歌山大会

## 参加者アンケートまとめ

2025年11月22日～11月23日

参加者162名  
回答者85名  
回答率52.5%



## 1. つどいから持ちかえったもの 一部抜粋

社協って何するか、何しているか分からない組織。でも住民さんや地域のために動く組織だと自信をもって行動したいと思ったこと。

学び  
つながり  
餅まきのお土産

ひとりの人間、ひとりのワーカーとしての仕事への向き合い方（もう一度向き合おうという力）をいただきました。

皆さんの熱い想いを持ち帰りました。



県内だけでなく、県外の方ともお話しする機会が多くあり、一人ではない! つながりの大事を身にしみて感じました。

新たな仲間。  
全国の仲間との  
つながり。

社協マン魂と  
若手職員の  
キラキラ感☆彡

一緒に悩み、  
楽しみ、笑い合い、  
相談できる仲間になった・仲間ができたこと。



▲丸2日間ずーっと心が動きっぱなし。たくさんの素敵な言葉と仲間に出会い、共感、感動、エネルギーを餅まきでゲットしたスポンジに染み込ませて持ち帰りました。

▲たくさんあり過ぎて、お腹いっぱいになりました。オープニングから度肝を抜かれ、コンパクトだったけど濃密・濃厚であった全大会&分科会。フィナーレの餅まきも圧巻でした。

## 2. 全体会①②について感じたこと等をお書きください

- 社協ワーカーとして内から感じることで外から見える社協の印象が全大会の話で聞くことが出来て新たな気づきになりました。モヤモヤはとても共感しました。
- 全体会は登壇して頂いたみなさんそれぞれのお話しをもっと聞きたい！と思いました。  
全体会では「わかる！」「ええやん！」うちわがあったことで、フロアの私たちも壇上の皆さんにリアクションできて、参加型で楽しかったです。
- それぞれの立場から背中を押された気がします！最後の全体会で、「染み込ませる」という言葉が印象に残りました。あきらめず、続けていくことが大切だとおもいました。
- オープニングイベントで緊張がほぐれました。
- 今は福祉分野に限らず、様々な団体とつながりながら、みんなで地域福祉を進めていくことが大切だと感じました。その中で社協は人や団体をゆるやかにつないでいく大事なポジションだと思いました。
- 総括して感じたことは、社協の可能性は無限大！
- 分科会報告で「社協を支えるのは社協しかない」という言葉を聞け、「社協」という共通の屋号で日々地域福祉活動に従事している仲間がいることを大切にしたいと思った。そして自分も同じ仲間の背中をそっと後押しできる存在でありたいと感じた。
- 楽しさの中にしっかり学びもあってよかったです。  
餅まきに圧倒され、2日間の記憶が上書きされそうでした（笑）

## 3. 各分科会で感じたこと

- ◇若いっていいですね。スタッフさんが念入りに企画されているのが伝わってきました。（第1分科会）
- ◇業務や事業に引き寄せることなく、マインドや姿勢など本質的なことについて考えたり、話ができ、とても有意義で嬉しい時間になりました。（第2分科会）
- ◇残りが見えてきた社協人生、今一度わくわくを見出して過ごそうとおもいました。（第3分科会）
- ◇分科会は私の居場所と思える空間でした♡ありがとうございました。（第4分科会）
- ◇他の社協職員も同じ気持ちを抱えながら頑張っていると思うと心強いです！いざ！という時は応援メッセージの封筒を開封して頑張ります(≧▽≦)（第5分科会）
- ◇日頃話すことに躊躇している思いを発散できてよかった。みんなが語り、それを受け止めあうワーカーがここにはいた。（第6分科会）

## 4. 実行委員へのメッセージ等

- ♡自分の目標とワクワクを得られるすごくいい機会になりました。ありがとうございました！
- ♡餅まきは初めてで怖かったけど、餅を食べておいしかったです。初めての参加でホントに楽しかったです。
- ♡しばらく「わ・わ・わ・わかやま〜♪♪」が消えそうにありません
- ♡実行委員のみなさん本当にお疲れ様でした。皆さんの愛、想いがたっぷりつまったつどいに参加出来て嬉しく思います！
- ♡はじめのバンド、ダンス、本当に楽しかったです！！和歌山らしいほっこりおもてなし満載のサイコーのつどいでした。ありがとう！！やー！

和歌山大会は、たくさんの企業様・団体様にご協賛・ご協力いただきました！

心より御礼申し上げます。

株式会社五大オーエー 様

五大様 公式ホームページはコチラ

株式会社 MBS 様

かくだい君(MBS様) 公式ホームページはコチラ

株式会社早和果樹園 様

早和様 公式ホームページはコチラ

株式会社じゃばらいず北山 様

じゃばらいず様 公式ホームページはコチラ

プラム食品株式会社 様

プラム様 富の里ネットショッピングサイトはコチラ

紀州みなべ梅干生産者協議会 様

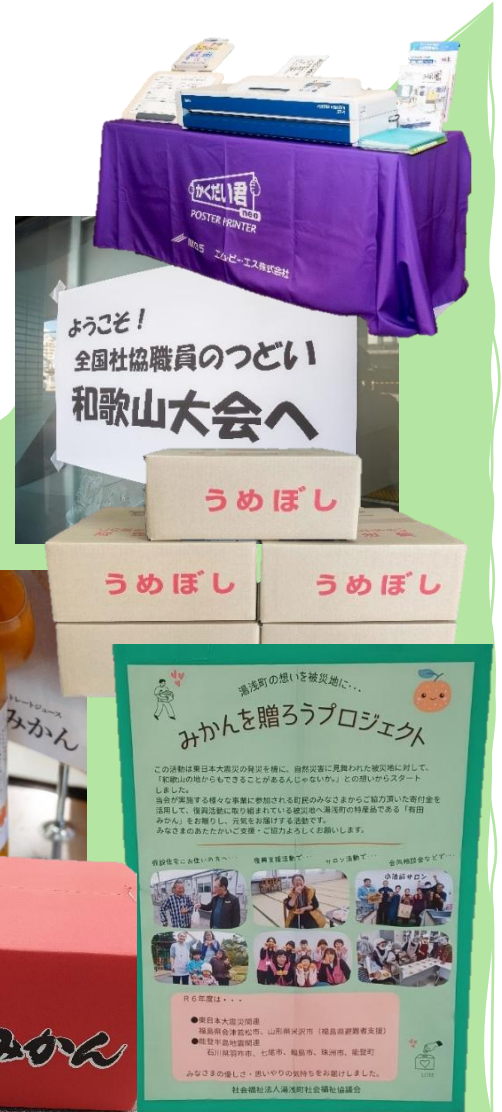
紀州みなべ梅干協同組合 様

紀州みなべ梅干はコチラからお好きな販売店にアクセス

有田みかん

湯浅町社会福祉協議会 様

広報ぶちょーのじーちゃん



和歌山県市町村社会福祉協議会連絡協議会 様

紀の川市ボランティア連絡協議会桃山支部 様(報告書 26 頁参照)

社会福祉法人 一峰会より

おかし工房桜和 様 ・ あすの実 様 ・ ぱん工房かたつむり 様

一峰会様 おかし工房桜和 バウムクーヘン購入はコチラ

株式会社エスフェクトおよび Print コーディネーター 窄口真吾 様

株式会社 エスフェクト ホームページはコチラ



WA ポーズ他





## つどい和歌山大会 実行委員会活動記録

DAY	コア会議		実行委員会	
2024/4/9	メッセンジャーグループ開設 協議開始			
6/29	つどい京都大会で和歌山開催を宣言			
7/29		第1回	コアと分科会実行委員の方向付け およそのタイムラインの決定	
8/23	自主勉強会を開催 京都大会の報告とわかやま大会決定 実行委員の呼びかけ			
9/6	Facebookページ立上げ			
11/17	〇つどい会場確定			
11/28		第2回	分科会企画書提出依頼 もちまき案確定	
2025/1/14	第1回	全体会の具体化		
1/22		第3回	全体会について報告 交流会の会場について協議	
1/24	〇交流会会場確定			
2/6	第2回	会費等予算大枠決定		
2/27		第4回	計画書Ver.1提出	
3/31	第3回	予算再計算		
	〇奈良チーム実行委員会入り決定			
4/25		第5回	確定予算共有	
	〇関コミ正副会長実行委員会入り決定			
5月	第4回	定員・会場確定		
5/24	第5回	金田先生とMTG		
6/2		第6回	要項案修正	
	第6回	要項案最終調整		
7/7	第7回	さこぴーと打ち合わせ		
7/13	●要項発出 FB/全社協・過去参加者県内社協・近畿府県社協			
7/15	●受付開始			
8/4	第8回	全体会登壇者打ち合わせ		
8/29	何と！参加申込早くも総定員達成！		第7回	全体会共有/進捗報告
9/5	第9回	決定メール内容・おもてなし企画		
9/12	●受付終了			
10/8	第10回	全体確認 他		
10/13		第8回	対面実行委員会	
10/23	第11回	最終調整事項確認 他		
11/13		第9回	最終回 流れの確認	
11/21	前日準備			
11/22・23	つどい和歌山大会開催！！大盛会！！			
12/17	第12回	振り返り 報告書仕様決定		
2026/3/20		第10回	最終実行委員会	

## 番外編1 あの歌とダンスはいかにして生まれたのか1？

オープニングはド派手に何かしたい！というコア会議でのやりとりから、軽いノリでダンスを口走った広報ぶちょー。当初は別の振付のある曲を提案しましたが、実行委員長から「あの某大型家電量販店のCMソングにダンスつけなよ」というアシストが！メッセージャー内でのやりとりですが、その文字を見た瞬間に「わ、わ、わ、わかやま～」が浮かんだのです！

第5回実行委員会(2025.4月開催)において、実行を決断し、振付は新人分科会へやさしくお願いしました(笑)。8月の新人分科会の対面会議で振付を検討しはじめ、10月に完成！新人のしまちゃん(嶋田)が一人で踊る振付動画が全実行委員に共有されました。当初は当日のダンスも新人が担当することになっていましたが、実行委員長の「全員で！」という強い意向で総踊りになりました(でも、委員長は着ぐるみの中でしたけど・・・)。

替歌 つどい和歌山のうた  
Tsudo Ver.~わかやまソング~  
変詞：広報ぶちょー  
タイトル：実行委員長  
振付：新人分科会実行委員

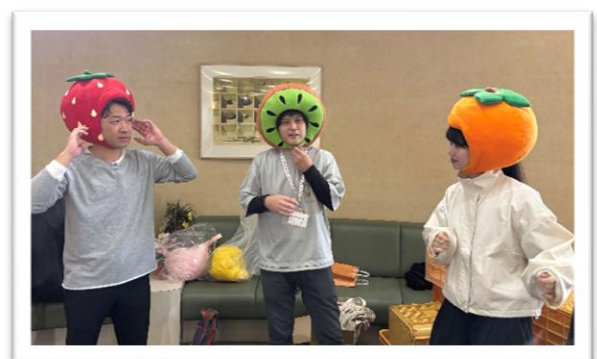
わ・わ・わ・和歌山  
わ・わ・わ・和歌山  
つどい はじめて  
おいな わかやま  
きつと めっちゃ  
うまくいくで  
出合いがいっぱい和歌山  
和・話・輪・環・  
goodtime 和歌山



10月実行委員会で  
全員でレッスンの様子

当日の本番前の一コマ ➡  
「しまちゃんの動画ばかり見てたんよ～」

と、知らない人が聞くと、ハラスメントスレスレの会話が繰り広げられていました(笑)



## 番外編2 前日準備

大会前日、都合をつけられる実行委員が海南市保健福祉センターに集まりました！第一の任務は！

名簿の修正2か所、シール貼り400枚！！



本当に申し訳ない限りでした。これが終わらせないと次に進めないということで、非常にこまか〜い作業をみんなで励まし合いながらなんとかやり遂げました。

ご協賛企業の多かった和歌山大会なので、当日資料と共にお配りするチラシやパンフレットも盛りだくさん。封入作業も全員で力を合わせてやり遂げました。

実行委員長からはスタバ！  
慣れない田舎の人たちは選ぶのも大変(笑)



海南市社協の事務局長さんから  
いただいた差し入れて休憩☺  
海南名物 「ずぼら焼き」



### 番外編3 広報ぶちよーを支えた社協ワーカーたち

実は、つどい和歌山大会では、遠方になる和歌山県にもたくさんの県外ワーカーをお迎えしたいという思いで、開催の1年以上前から公式 Facebook ページを開設し、発信を続けていました。その内容はページを遡れば見ることができますのでぜひご覧ください。



さておき、開催が迫るに連れ、広報ぶちよーの広報以外の作業が多くなることは目に見えており、どこまで発信を続けられるかと気がかりでもありました。そんな時に、奈良県内の有志ワーカーたちがつどい和歌山大会に伴走してくれると分かり、この面々に広報の後方支援を頼もう！と決めました。分科会メンバーとは違う形で参加者の皆さんを追いかけていました。

開催前の SNS 実行委員紹介リレーにはじまり、大会当日の SNS 発信は“なら広報大志”たちがすべて担当しました。

背表紙にある実行委員長の餅まきのカッコいいバックショットも大志撮影によるものです。

そして、もう一人は京都から！  
“有田のおばちゃんブース”をサポートに入ってくれました！

「みかんとコタツ」をみなさんに楽しんでもらいたいと準備したものの、広報ぶちよーがそこに座っている余裕はなく・・・。

ウェルカムドリンクのおもてなし・手荷物預かりもちより品受取・コタツでのみかん配りと分科会に入らず、全面的にバックアップいただきました。



ご購入はこちらから  
もしくは、  
スタンプ名  
「ななレオン」で検索！



ななレオンスタンプにも  
寄り添うわかやま♥きょうとレオン  
の姿があります(笑)

2日目まさかの欠席になった広報ぶちよーの枠を実行委員みんなでのカバーに心から感謝です！

第22回全国社協職員のつどい和歌山大会 実行委員名簿

コアメンバー					
所属社協	氏名	担当			
すさみ町	地本達行	★実行委員長			
田辺市	中橋 香	事務局庶務係			
紀の川市	道本篤幸	懇親会			
有田川町	谷口友紀	記録・関コミ連携/全体会登壇者			
上富田町	関口玲子	事務局員/第4分科会リーダー			
有田市	宮本朋子	広報・よってって/第6分科会報告者			
第1分科会-新人-					
所属社協	氏名	所属社協	氏名	所属社協	氏名
日高町	林 季和	新宮市	藤田夏輝	和歌山県	福田悠人
有田市	嶋田 茜	和歌山県	草竹 綾香	大和高田市	石谷智也
第2分科会-災害支援-					
太地町	漁野真司	新宮市	大江真季	串本町	竹中真希
那智勝浦町	川口詠史	新宮市	福島 圭	和歌山県	南出 考
古座川町	寺岡克視	北山村	山崎 悟		
第3分科会-社協人生集大成					
かつらぎ町	山本幸則	紀の川市	辻 佳秀		
第4分科会-IBASHO-					
上富田町	関口玲子	和歌山県	栗山 史	和歌山市	左巴誠人
和歌山県	峪 仁美	和歌山県	松下純子	上富田町	坂口岳寛
奈良市	高島麻衣子				
第5分科会-相談支援-					
海南市	中谷 宏	田辺市	古久保和樹	和歌山県	井上真典
第6分科会-基本要項-					
東近江市	中西知史	八幡市	福富儀夫	高槻市	杓谷顕彰
奈良市	後藤文造				
広報/「よってって」ブース					
奈良市	石井 椋	奈良市	小笹優佳	大和高田市	藤田智史

当日分科会スタッフ					
第3分科会					
みなべ町	土井郁夫	和歌山県	榎本幸治	和歌山県	谷 共洋
第5分科会					
海南市	村木理恵				
第6分科会					
兵庫県	高橋俊行	大阪府	難波志保	奈良県	岡本晴子
近江八幡市	重野弘樹	宝塚市	大関可奈子	福知山市	竹本悠二
京都市	小山恵太郎				
当日運営スタッフ					
海南市	田中健人	海南市	中尾千絵	有田川町	岩上太郎
海南市	小山淳志	田辺市	岡田志織	有田川町	川嶋はるな
海南市	木村朋美	田辺市	保田志歩	城陽市	岡本日和
	和歌山県内	和歌山県外	計		
実行委員	29	9	38		
当日スタッフ	12	8	20		
計	41	17	58		





和歌山まで来てくれて ありがとう



実行委員集合写真

WA!



わ、わ、わ、わかやま〜♫  
わ、わ、わ、わかやま〜♫

